

Ⅲ. 人間社会学科の基本姿勢

【学科概要】

グローバル化、少子高齢化、高度情報化など、世の中のシステムや価値観が多様化、複雑化する社会情勢の中で、変化に柔軟に対応し、自律した職業人として活躍できる人材への社会的ニーズが、工学系企業はもとより社会のあらゆる業種において高まっています。また、仕事のみならず地域社会への貢献を通じて自分らしい生き方を実現し、これからの社会の新しい豊かさの創造に寄与する人材の育成もますます希求されています。そこでは特定の分野における専門性と同時に、あらゆる分野や状況に対応可能な、知識や情報活用能力、コミュニケーション能力やリーダーシップ、実行力といった総合的な能力、まさに人間力が求められるでしょう。

人間社会学科は平成20年より、このような時代の要請に応えるべく、本学の基本理念である『ヒューマニティとテクノロジーの融合』のもと文理の枠組みを超えた知識、“目標を達成するための最善策を導き出しそれを実践する”というマネジメントの考え方を基盤として、企業、地域・国際、コミュニケーション、文化の各領域を専門的な学びの対象とした教育を行ってきました。今回のカリキュラム再編にあたり、専攻という形で4つの柱を立てました。それらは経営学、社会学、心理学、健康・スポーツです。この4専攻の構成を大きく分けるならば、「人間社会」の特に「社会」に密接した実学を学ぶために経営学と社会学があり、「人間」のあり方を追究するために心理学と健康スポーツ学があると言えます。

【教育目的】

人間社会学科は、個々の学生が社会において自らの能力を遺憾なく発揮し、我が国の活力ある社会形成に資するため、マネジメントの専門知識、工学および情報の知識と技法、コミュニケーション能力、思考活用能力を磨くことで、総合的な能力を涵養し、北海道および我が国の企業、地域社会を実質的に支える社会人を育成することを目的としています。

【教育指針】

人間社会学科は、将来に向けての多様な人生設計に応えられる広範囲にわたる教育プログラムを用意しています。1年前期から1つの専攻を選びますが、他専攻の科目の中から選択することも可能なカリキュラムを組んであります。また、効率よく実践的に学習することができる少人数教育が特色です。少人数教育というスケールの価値をより高めるため、チームでプロジェクトを遂行する場面が多彩に取り入れられています。こうして社会人として知識と実践の二つの側面から問題解決を可能とする総合的な能力を育成します。

【教育・学習目標】

- 1年次：** 特に前期において、学士として最低限必要な知識や技能を基本教育科目で学習します。また、専門教育科目の各領域の導入科目を概論という形で学習します。自分が専攻している概論はもちろんですが、他専攻の概論も受講可能です。1年後期になると、より専攻に根ざした専門教育科目が開始されます。
- 2年次：** 基本教育科目は1年次に学修した科目を土台にしてさらに発展します。加えて、専門教育科目が本格化します。自らのキャリア・デザインに応じた専門分野の知識やスキルを身につけていきます。また、少人数の実践型科目である人間社会基礎研究、人間社会応用研究において、プロジェクトベースの実践的な学びが展開されます。
- 3年次：** より一層専門教育科目を重点化しながら学習を進めます。人間社会課題研究ⅠとⅡでは自らテーマを決定し実践していきます。以上の活動を通して卒業研究へとアプローチしていきます。

4年次： 専門的な知識と、プロジェクト活動を通して得た実践的な知識、技能を総合して、通年にわたる卒業研究に取り組み、教育目的を達成します。

【ディプロマ・ポリシー】

人間社会学科は、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を中心に据え、「北海道および我が国の活性化を実質的に支える人材の育成」を教育目的として、学部の教育課程が定める授業科目を履修し、別に定められた卒業要件を満たした学生に「学士」の学位を授与します。これによって、卒業生には、以下の能力・知識・態度が身につけていることを保証します。

1. 知識・理解

(A) 人間社会学の基礎的な学術理論を基板として経営学、社会学、心理学、健康スポーツの専攻分野毎に、それぞれ関わる知識、それらに関連付ける体系的な理解。

(B) 社会人としての教養につながる人文学、社会学、数学、自然科学、情報技術などに対する幅広い知識。

2. 汎用的技能

(C) 正しい言語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力。

(D) 情報技術や社会的分析能力を獲得し、データや資料を的確に分析・精査し、その結果を用いて論理的に問題の所在や解決方法について考察を加えることができる能力。

(E) 現代の社会における課題を探求・発見し、それらの課題を経営学や社会学、心理学、健康スポーツ学などに関する知識を活かして解決する能力。

3. 態度・志向性

(F) 協働グループ内、地域内で自らの役割・責任を的確に理解し、学習の場面、業務の場面においてその役割・責任を果たす能力。

(G) 自主的・自律的な学習・討論を通して、自らまたはグループの問題を発見する能力や問題解決能力を検証・強化していく習慣。

(H) 自らを律して学習する習慣を身につけ、社会的規範・通念に即した行動選択ができる能力。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(I) 人間及び社会に関する総合的な視点と知識を身につけ、現代社会の諸問題を柔軟に分析する能力と技術、情報発信能力を持ち、社会の発展に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

本学では、ディプロマポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各ポリシーと授業の整合性を体系的に理解してもらうためのカリキュラムフローを作成しています。また、各授業科目の達成目標とディプロマポリシー各項目の関連性についてはカリキュラムマップにまとめられております。学生諸君はこれらのツールを利用して学習を進めることにより、卒業＝ディプロマポリシー達成までの過程における自らの立ち位置を確認することができます。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、および改善を行います。

【アドミッション・ポリシー】

グローバル化や少子高齢化、デジタル化が進展し、世の中のシステムや価値観が多様化、複雑化する社会情勢の中で、変化に柔軟に対応し、自律した職業人として活躍できる人材への社会的ニ

ズがあらゆる業種において高まっています。また、仕事のみならず地域社会への貢献、健康で自分らしい生き方の実現を通し、これからの社会の新しい豊かさの創造に寄与する人材の育成もますます希求されています。

人間社会学科では、このような時代の要請に応え、経済の基盤となる経営学、地域社会の発展の基盤となる社会学、人間関係の基盤となる心理学、健康の基盤となる健康スポーツの4つの専攻領域を設け、わが国および北海道の経済産業や地域社会の活性化を担う次世代の人材を育成します。

—求める人材像—

- ・ 将来、社会人としてわが国および北海道の新しい豊かな市民社会の創造に向けて積極的に活動しようという意欲を持つ人
- ・ 人間関係に対し強い関心を持ち、地域の人々と関わり合いながら自らの社会性を高めたいという意欲を持つ人
- ・ 高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、外国語（英語）、社会科（特に公民）について基礎学力を有する人
- ・ 健康スポーツ専攻を希望する学生は、さまざまな運動・スポーツの実践指導に対応できる身体的能力を有する人